

どんな人があたるのかな

全体学習 20分

【学習のねらい】

- ・参加者全員で体を動かす活動を通して、気持ちよくコミュニケーションすることができる。
- ・ことばの響きとしていろいろな感じ方があることに気づき、互いを尊重し合う言い方について考える。
(コミュニケーション、自己表現・他者理解)



【準備するもの】

・イス (人数分)

【進め方】

- (1) 1グループ (10人以上) に分け、イスを円く置き、人数分より一つ少なくする。
- (2) 簡単なイス取りゲームをやるということを参加者に伝える。
「このゲームは、参加者の特徴的なことがらをつかんで、円の真ん中にいる指示者が、『○○の人』あるいは『○○と思っている人』というように言います。」
「言われた中に、自分が当てはまるときは、今座っているイスを替えます。」
「イスを替えようといったん飛び出したら、再び自分のところへ戻れません。」
「また、前の人が言ったことを繰り返さないようにしましょう。」
「参加者の特徴をつかんで言うときは、外面ばかりでなく内面的なことを言っても結構です。」
- (3) ゲーム開始を指示して、どんなことばを言っているか進行役はメモを取る。
- (4) 3分位実施したらゲームを止めて、いったんまとめをする。
「今自分のなかでどんな気持ちの変化がありましたか。」
- (5) 各グループで言った言葉 (メモ) を挙げて発表する。
「言われていやだった言葉はなにか」、「なぜその言葉がいやだったのか」を聞く。
「それではどのように言えばよかったのか」を考えて、再度実施してみる。
- (6) 感想を発表してもらい、まとめをする。

【留意点】

- (1) ゲームに慣れない参加者のために、フルーツバスケットを実施してみることもよい。
- (2) 相手を傷つける言動に対して、あらかじめ配慮するよう伝えておく。

参考図書：「人権教育ファシリテーター・ハンドブック」ERIC国際理解教育センター